

# 日本マレーシア経済協議会第34回合同会議概要報告

2016年6月  
日本マレーシア経済協議会

1. 日時： 2016年6月1日（水） 10:15～16:55
2. 会場： ホテルニューオータニ 「おり鶴 麗の間」（東京）
3. 出席者： 総勢183人（両国協議会メンバー・オブザーバー等）  
【日本側】 佐々木幹夫 日本マレーシア経済協議会会長他115人  
【マレーシア側】 アズマン・ハシム マレーシア日本経済協議会会長他62人  
【来賓】 アーマド・ザヒド・ハミディ マレーシア副首相、ティオン・キン・シン 東アジア担当首相特使、宮川眞喜雄 駐マレーシア日本国大使、アハマッド・イブラヒム・ビン・イドゥリス 駐日マレーシア大使

## 4. 総括的概要：



ザヒド・ハミディ副首相による基調挨拶

今回の合同会議には、両国協議会メンバーを中心に総勢183名が参加し、「日本・マレーシア間の経済のコラボレーションの強化と深化」をテーマに活発な議論を行った。

アーマド・ザヒド・ハミディ マレーシア副首相による基調挨拶をはじめ、両国政府の通商交渉官によるASEAN共同体（AEC）、RCEP、TPPの最新状況、製造業誘致を進めるケダ州ならびに東海岸経済地域の投資機会に関するスピーチのほか、34回を重ねる本合同会議で初めてマレーシア企業による日本進出の事例が紹介されるなど、両国経済関係の新たな発展に向け、示唆に富む会合となった。

## 5. セッション別概要：

### (1) 開会式

開会式で佐々木会長は、1977年の当協議会設立以来、日本企業のマレーシア進出は業種の多様化が進み、近年では、マレーシア企業による日本進出も増加していることに言及。AEC、TPP等、多国間経済連携の枠組みが大きく動き始める中、今回の会議を通じて「両国経済のコラボレーションの強化と深化」について議論したいと述べた。

アズマン・ハシム会長は、両協議会がこれまで合同会議、ミッション、シンポジウム等を通じて経済面での交流を続けてきたことに触れ、「我々民間セクターは競争力を維持するため、常により創造的な道を模索しければならない。両国経済発展を次の段階に橋渡しすべく、日本側協議会とともに二国間関係をさらに発



佐々木会長による開会挨拶

展させていきたい」と述べた。

続けて、宮川眞喜雄 駐マレーシア日本国大使が安倍晋三日本国内閣総理大臣の祝辞を、アハマッド・イズラン・ビン・イドゥリス 駐日マレーシア大使がナジブ首相の祝辞を代読した。

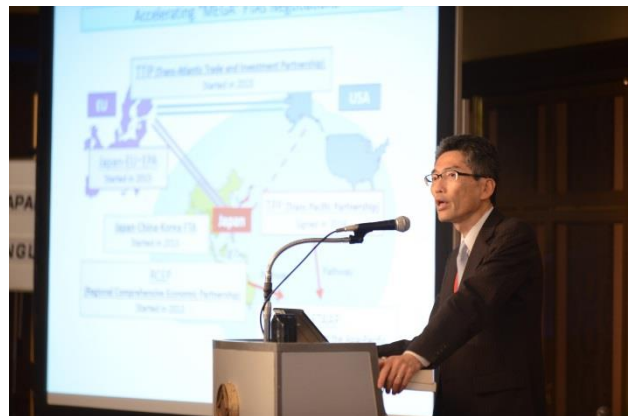
基調挨拶では、アーマド・ザヒド・ハミディ マレーシア副首相が、製造業分野では日本がマレーシアへの最大の投資国であり、電気・電子、非鉄金属、石油化学など幅広い分野で昨年未までに3,362件のプロジェクト、329億ドルの投資がなされ、451,387人の雇用を生み出していることを紹介。ASEANの中心に位置する地理的優位性、実用的でビジネスフレンドリーな政策、発達したインフラと接続性により、マレーシアは巨大なASEAN市場への玄関口となるとして、ハイテク産業、資本集約型産業、高付加価値型産業、知識ベース産業、技能集約型産業、輸出志向ビジネス等といった分野で日本の投資を歓迎すると述べた。



ザヒド・ハミディ副首相に記念品を贈呈

## (2) 第1回全体会議

第1回全体会議では、ヒスワニ・ハルン マレーシア国際貿易産業省顧問がAEC、RCEP、TPPのこれまでの取組みについて紹介し、AECにおいては非関税障壁の撤廃、Eコマースの活用促進に焦点があたる一方、RCEPにおいては、中国、インドといった大国を含む多様な国々のルール統一を図ることに意義があることを説明した。坂本敏幸 経済産業省通商政策局通商交渉官はRCEPとTPPをテーマにスピーチを行い、RCEPの重要性として二国間FTAの積み重ねでは実現が難しい東アジアにおけるサプライチェーンの統合、原材料・部品調達の簡易化、サービス貿易と国外への投資増加を挙げた。



坂本 通商交渉官

## (3) 第2回全体会議

第2回全体会議では、マレーシアにおける日本企業の投資に着目し、ケダ州・東海岸経済地域における投資機会、マレーシアにおける日本企業の動向について講演が行われた。

### ①マレーシア・ケダ州における投資機会

ク・アブドゥル・ラフマン・ク・ビン・イスマイル ケダ州エグゼクティブ・カウンセラー、産業・投資・国内貿易・組合・消費者委員会委員長は、同州の概要について紹介したうえで、製造業分野における同州への最大の投資国は日本であり、同州には電機・電子産業を中心として多くの日本企業が進出していると述べた。続いて、アーマド・シュクリ・ビン・タジュディン インベスト・ケダ マネージング・ダイレクターは同州の投資機会について説明し、電機・



ク・アブドゥル・ラフマン・ク・ビン・イスマイル  
ケダ州エグゼクティブ・カウンセラー

電子産業の日本企業も入居するクリム・ハイテクパークや統合漁業ターミナル、科学技術パーク、ラバーシティといった工業団地の紹介を行った。また、ユネスコ・ジオパークに認定されたランカウイ島をはじめとした観光分野における投資機会についても言及、「日本の旅行業関係者には、ぜひ同州へのトラベルパッケージに目を向けてほしい」と述べた。

## ②東海岸経済地域における投資機会

サイフォル・バーリ・モハマド・シャムラン 東海岸経済地域開発委員会 ゼネラル・マネージャーは、ケラントアン州、テレンガヌ州、パハン州とジョホール州メルシンからなる同経済地域の概要について講演を行った。承認された企業への10年間の所得税100%免除といったインセンティブ、ハラルパーク・バイオパーク等の工業団地を紹介し、既に20社以上の日本企業が進出していると述べた。

続いて、カネカマレーシアの坪内福生 マネージング・ダイレクターは、1995年の現地法人設立以降の歩みについて紹介。高度熟練技術者の育成を通じ、将来の研究開発への投資をマレーシア国内で行うことをコンセプトとしており、現在同国内の6社で計541人のマレーシア人従業員を雇用していることを紹介した。続いて、2015年2月に設立されたトソー・アドバンスド・マテリアルズの高原俊也 ゼネラル・マネージャーは、トレンガヌ州ケヌマン・テロックカロン工業団地における工場設立プロジェクトを紹介し、同工業団地を選定した理由として、工業用水・原料といった必要物資確保における利便性、税制優遇・安価な土地リース価格といった優遇制度を挙げた。

## ③マレーシアにおける日本企業の動向について

中山昌邦 マレーシア日本人商工会議所(JACTIM) 貿易投資委員会副委員長は、1983年に設立され、現在592社がメンバーとなっている同所の活動を中心に、現地における日本企業の動向について講演。2016年に同所とジェトロが行った調査で、投資先としてのマレーシアの魅力について「日本への親和性」「人々の英語能力の高さ」「自然災害の少なさ」を挙げた企業がいずれも50%以上であることを紹介した。また、今後、同国ではTPPの発効によるコンビニの外資開放などの好影響、世界的に認知されたハラル産業のハブといった可能性がある一方、日本企業が直面する問題として労働者の賃金上昇と確保の難しさ等を挙げ、この点についてマレーシア政府に改善を要望した。



中山 JACTIM 貿易投資委員会副委員長

#### (4) 第3回全体会議



仲條 ジェトロ対日投資部長

第3回全体会議では、日本におけるマレーシア企業のビジネスに焦点を当て、まず仲條一哉 日本貿易振興機構対日投資部長が、日本における投資機会について講演を行った。投資先として見た日本の魅力として「洗練された市場」と「技術力の高さ」を挙げ、「日本には、アジア諸国が求める技術が多くあり、製造・研究開発・調達拠点を日本に置こうとする外国企業からの問合せも実際に増えている。厳しい目を持つ消費者層を抱える日本での成功は、アジアにおけるビジネス拡大につながる」と述べた。株式会社ブラヒムフードジャパン

の清水正昭 代表取締役は、ハラル食品を製造・販売する企業の日本拠点である同社のレトルト食品の事業について説明した。顧客は飲食店が主で、大都市よりも地方での需要が多く、訪日外国人観光客はもちろん日本人も顧客として狙う。また、「ハラル対応した日本食のレトルトのOEM生産も検討している」と述べた。株式会社アット・トヒバ・ジャパンの細川進 代表取締役は、日本国内でのハラル認証取得を中心としたコンサルタントとして進出した同社の事業を説明し、オリンピック開催までに「世界で通用するマレーシア基準のハラル認証を日本に普及させたい」と述べ、ハラル食品の工場を集めたハラルパークの事業を紹介した。

#### (5) 閉会式

閉会式でアズマン・ハシム会長は、AECの発足、RCEP、TPPの近い将来の発効による両国間の貿易・投資拡大に期待を示し、マレーシアはASEANとその先の市場への最もよいプラットフォームになる、と述べた。また、両国協議会の40周年を記念して開催する次回、第35回合同会議について、2017年にマレーシアで開催することが表明された。

最後に、佐々木会長が今次合同会議の総括を行い、次回合同会議への期待を述べた。

#### (6) 日本マレーシア経済協議会主催歓迎夕食会

閉会式の後、日本マレーシア経済協議会主催歓迎夕食会が開催され、アーマド・ザヒド・ハミディ マレーシア副首相より乾杯のスピーチが行われた。また、日本伝統芸能を海外に広める活動を行っているユニット「綾音～Ayane～」による長唄・日本舞踊等を楽しみながら親交を深めた。

#### 6. 関連プログラム

##### アーマド・ザヒド・ハミディ マレーシア副首相とのラウンドテーブルミーティング

合同会議開催前にはアーマド・ザヒド・ハミディ マレーシア副首相とのラウンドテーブルミーティングを開催し、当協議会メンバー16名が参加した。参加した日本企業から寄せられたマレーシア政府への質問・要望に対して、ハミディ副首相自ら回答を行った。



ラウンドテーブルミーティング

以上